



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつゆぐイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第24回 記憶と感情

BI 0 | チェック | いいね! 0 | Tweet

突然ですが、皆さんは自分にとって「一番古い記憶」が何であるかを思い出せますか。そして、「一番古い記憶」が、その後の自分の感情にどのような影響を与えているか、考えてみたことはおありでしょうか。

実は先日、珍しくカラオケに行きました。私はめったにカラオケに行かない人なのですが、行けば必ず歌う曲が何曲かあって、そのうちの一つが美空ひばりさんの『柔(やわら)』です。「勝つと思うな、思えば負けよ」という歌詞がひととき印象的な、あの名曲です。私がこの曲を歌いはじめると、一緒に行った友人はたいていビックリし、

「真美さんと美空ひばりって、なんだかミスマッチですねえ」

と言います。それもそのはず。私が歌えるレパートリーは、『柔』以外はボサノヴァとかカレン・カーペンターの楽曲とか、横文字の曲がほとんどで、演歌はこの一曲だけなのですから。

実は、私が『柔』を歌うのには理由(わけ)があります。美空ひばりさんといえば、押しも押されぬ昭和の大スターですが、何を隠そう、私にとっての「一番古い記憶」に登場する人でもあるのです。

そして、その記憶こそは、私という人間の「心の成り立ち」を考える上で重要な、ある遠い日の思い出へとつながっていたのです。

両親に連れられて、信州のどこかにある温泉旅館へ1泊2日の旅に出かけたのは、私がまだ生後6か月か7か月のときのことでした。

部屋に着くと、私はすぐに布団の上に寝かされました。窓の外には欄干(らんかん)があって、浴衣姿の父が片手を欄干にかけて立っているのが見えました。

外はまだ明るく、逆光のため父の顔はよく見えませんでした。寝ている私の位置から見ると、父はまるで仁王像のように大きく、そのまわりにタバコの煙がゆらゆらと漂っていたことを今も覚えています。これこそが、私が覚えている父の最初の姿です。

殺風景な部屋の襖(ふすま)には、松の木が何本か描かれていました。私はそれを見て、(つまらない絵だな)と思い、ちょっと不愉快でした。けれども、その気持ちを口に出

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



名刺データとSFAで営業強化

SFAでは見えない顧客情報を可視化。SFAと名刺管理で営業を強くする！

jp.sansan.com



してしゃべることは、私にはできません。なにしろ私は生後数か月の赤ちゃんで、まだ言葉をしゃべれないのですから。

言葉はしゃべれないけれども、そのとき私はしっかりと「言葉を使って」頭の中で考えていました。そして、襖に描かれた絵を(つまらない絵だな)と思っていました。そのときの自分の気持ちは、今でもハッキリと思い出せます。赤ちゃんがこんなことを思っているなんて、思えば凄いことですね。

さて、問題の「美空ひばりさん事件」が起こるのは、この直後です。

私は母に抱かれて大浴場へ行きました。体を洗ってもらい、すっかり気持ちがよくなった私は、シッカロールで真っ白になった姿で脱衣場の片隅に寝かされて、母の支度が済むまでそこで待たされていたのです。

すぐそばには、付けっぱなしの白黒テレビが置いてありました。何という番組だったのか定かではありませんが、オンエアされていたのはネコとネズミがグルグル追いかっこをする滑稽(こっけい)なアニメで、それが、とてつもなく面白かったのです。

私は嬉しくて嬉しくて、喰い入るように画面を見つめていました。ほんの5~6分の出来事でしたが、それはまさに至福の時でした。世の中にこんなに面白いものがあるなんて、それまで少しも知らなかったのです。まさに「開眼した」という感じでした。

ところがそのとき、ガラガラッという音とともにドアが開き、いかにも蓮っ葉な感じの中年女性が数人、ドカドカと脱衣場に入って来たのです。私は、例の襖に描かれた「つまらない松の絵」を見たときのように不愉快な気持ちになりました。

女性たちは、大声で笑いながら服を脱ぎはじめたのですが、そのうち、ひとりがドストスンと象のように床を踏み鳴らしてテレビに近づき、

「何か、もっと気のきいた番組はやってないの？」

とガラガラ声で言い放ったのです。そして、誰かが何かを言う隙(すき)も与えずに、いきなり乱暴な仕草でチャンネルを回してしまったのです。

私は驚きと悲しみで、心臓が止まりそうになりました。もう少しで大声で泣き出しそうになりましたが、必死で耐えました。というのも、(ここで泣いたら、きっとおかあさんが困るだろう)と思ったからです。

たった今まで元気よく走りまわっていたネコとネズミが消え、代わりにテレビ画面に現われたのは、着物を着た女の人でした。女の方は、私が知らない歌を歌っていました。私は、(もう、あのネコとネズミには逢えないんだ)と思い、まるで親しい友達を失ったように、ひどく悲しい気持ちになりました。

チャンネルを勝手に回した象のような風貌のおばさんが、

「いつ聴いても、ひばりちゃんはいいいねえ！」

と言いました。ほかの人たちも口々に、「美空ひばりは最高だ！」という意味のことを言ったので、私はテレビの中の人の名前が「美空ひばり」だと知ったのです。

数秒後、裸になった中年女性たちはさっさと大浴場に行ってしまう、あとには母と私だけが残されました。

母は、たったいま目の前で起こった事件が自分の幼い娘にどれほど大きなインパクトを与えたかということに全く気づいていませんでしたし、かと言って、テレビのなかの美空ひばりにも興味がないようでした。

母は身支度を済ませると、私を抱いて部屋に戻りました。そこには、例の「つまらない松の絵」が待っていて、私の気持ちをよけい陰鬱にしました。

ネコとネズミは、もうどこにもいません。なんと悲しいことでしょう。思えばそれが、私が人生

で初めて味わった「好きな者との別れ」でした。そして予想したとおり、私がああのネコとネズミにめぐり逢うことは、二度と再びなかったのです。

その後、私はかなり長いこと「美空ひばりさんアレルギー」に陥りました。もちろん、この件に関してひばりさん自身に何の落ち度もないことは十分わかっているのですが、人生で「一番古い記憶」におけるひばりさんのイメージがあまりにも悪かったため、彼女が映っているテレビを見ると、反射的に消してしまうほどでした。美空ひばりさんの歌の素晴らしさに気づき、私がカラオケで『柔』を歌うようになったのは、あの出来事から実に40年以上が経ち、父もひばりさんも亡くなったあとのことでした。

人生というものは、ある意味、「記憶の積み重ね」に過ぎないのでしょうか。そして、自分でも忘れてしまった遠い記憶が、潜在意識のうえに色濃く影を落とし、その後の人間形成に深くかかわっていたりするのかも知れません。好き、嫌い、喜び、悲しみ、憎しみ、恐れ。いろいろな感情も、すべては遠い日の記憶の残像に過ぎず、いったん正体を思い出してしまえば「なあんだ」と笑い飛ばせるものなのかも知れません。

皆さんは、自分にとって「一番古い記憶」が何であるかを思い出せますか。

≪ 第23回 美人病にかかる(後編) 第25回 私の知らない私 ≫

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



かんたん帳票開発

GUIで設計・データマッピング DBやCSVからお手軽帳票出力
hos.co.jp/へ進む





© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)
[しいなまち みとら](#)
[こんごういんキッズ](#)
[メディアで紹介](#)

[ふっふっ雑記ブログ](#)
[唱えてみよう!](#)
[ないけんしてみよう!](#)
[東京お寺めぐり](#)
[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)
[仏教いちねんせい](#)
[まんが 小坊主くん!](#)
[ふっふっクイズ](#)
[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)
[金剛院NewS](#)
[金剛院について](#)
[金剛院の四季](#)
[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)
[おすすめリンク集](#)
[バックナンバー](#)
[サイトマップ](#)

糖尿病が不安な方へ

東京大学と共同発見、アガリクスの50倍の免疫効果を持つ新成分ブロリコ。
今だけ資料を無料配布 brolico-research.jpへ進む

